

2021 年度活動方針

新型コロナに翻弄されストレスの多い1年を経過しましたが、まだ変異株の出現やワクチン接種の進捗状況も未定のまま新しい年度となりました。互いに距離を取り、手洗いと消毒と換気、マスクをしての活動を続ける必要があります。

介護事業は訪問介護と「街かどデイハウス」はやむを得ず撤退しましたが、通所介護とケアプランセンターは維持しなければなりません。しかし、経営的には収入減と固定費が減らないために厳しい年となりそうです。過去の余裕のあった時代の慣習を見直しつつ、なお命を守り命を生かすために、より良い介護を保証する体制の立て直しを目指さなければなりません。会員互助活動として歴史のある「ありんこの会」の活動は、生活上のちょっとした困りごとにコロナ禍にあっても機能し続けていますので、発展的に続けたいと願います。

私たちの地域活動は人と人とのつながりが大切であり、高齢社会にあつて特にコロナ禍にあつて、恐れや不安を共有しつつ助け合うことが求められています。「自分の身だけを守ろうとすると不安になる。でも人の命を守ろうとすると不安が消える。」という貴重な体験は、東北大震災を通して伝えられています。そんな言葉に支えられて希望を失わずに進みたいと願います。

1. 心身ともに健康を維持し、生きがいや働きがいを見出すため、会員が地域で上手につながって助け合う仕組みを創る。
 - ① 運営委員会を毎月第3土曜日に開催します。午後に会員の交流の場として学習会や楽しい行事を企画することは、ワクチン接種などの状況を考慮しつつ行う。
 - ② つどいの家「はむろ」の介護事業には利用者の方々、スタッフ、そして将来的にはボランティアの方々の参加を得て共に成長していく。
 - ③ 塚原地区と南平台地区で開催している井戸端会が継続出来るよう支援する。
 - ④ 会員交流をはかるための「よくする会祭り」の年1回の開催を願う。

2. 病気や障がいを負っても互いに尊厳をもって生きられるよう、「弱さ」を共有して支えあい共に成長していく。
 - ① つどいの家「はむろ」の介護事業や予防活動を充実させると共に、ケアの質を高めていけるよう互いに協力し合う。
 - ② 会員の互助活動「ありんこの会」の活動の充実をはかり、支援会員、利用会員も増やしていく。
 - ③ 「認知症を理解し地域で支える会」の活動等に参加・協力し、認知症の人とその家族の支援に貢献する。
 - ④ 氷室のバプテスト教会で月1回開催している「ほっこりカフェ氷室」への参加・協力を呼び掛けていく。